



近藤 博信 教授

2001年10月に家政学部家政学科・生活経営学科同窓会が設立され、大学祭の最中に第一回総会が金城学院大学の食堂で開催されました。オブザーバーとして出席させていただきましたが、昨日のここのように強く印象に残っています。多くの同窓生の方々と歓談でき感謝しております。

2002年4月から家政学部家政学科への入学生はなくなりました。家政学部も生活環境学部（生活環境情報学科、環境デザイン学科、食環境栄養学科）となりました。

2003年度現在、3年生と4年生の家政学科・生活経営学科学生が在籍しています。家政学科の専任教員は、環境デザイン学科あるいは食環境栄養学科の教員として教壇に立っています。

2002年度後期に、私の場合、食環境栄養学科1年生（約80名）に「基礎栄養学」（2単位）という新しい授業科目を講義しました。1クラスの学生数は40名前後、また他学科の学生は受講不可と決められていて、授業環境はとても恵まれていると思います。食環境栄養学科の学生は管理栄養士資格を目標としており、4年次の終わりに国家試験受験が予定されています。講義をしっかりと理解し、また多くの事柄を覚えたり、応用力も身につけなければなりません。国家試験の出題範囲等を示したガイドラインも既に発表されています。「基礎栄養学」も管理栄養士国家試験の受験科目の1つに指定されており、ガイドラインを考慮しながら講義をすすめました。出題範囲が広く、12～13回の90分授業でカバーするには、教員も授業計画をたて、しっかりと予習して要領よく授業しなければならないと思いました。

私は金城学院に奉職32年目ですが、金城生が昨今変わってきたと感ずることはあまりありません。タバコを吸う学生もいますが、最近喫煙場所が指定されました。しかし、多くは、礼儀正しいし、すなおでよく勉強したりアルバイトに励んでいるように見えます。そんな折、卒業生の方が金城中・高生のお嬢さんと共に訪ねてきたりしてくださると、なつかしくうれしく思い、長く金城で教員をしているんだなあ実感します。

「野のはな」設立から3年を迎えます。最近、定例の委員会が終わると、「さあファッションの時間!タンスに眠っている着物の洋服へのリフォームはどうするの? 洋裁をもっと勉強しておけば良かった!」ところで、新しい「生活環境学」ってどんな内容なの?と年齢差を越えて仲間同士で楽しくワイワイ。勿論、10月の同窓会総会に向けての準備も始まり、会の在り方や必要性を模索しながら進めている現状です。

大切なのは、卒業生との「縦のつながり」だと思います。けれど、「クラス会」イコール「同窓会」という考え方を変えないかぎり、同窓会の魅力を発揮することが出来ないように思えます。もっと大勢の卒業生が同窓会に関心を持ち、意見を出し合う活動の場として育てていくのが理想です。

「野のはな」だからこそできる真の意味ある同窓会に向かって努力しますので、皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

会 長 荒 川 洋 子 (1回生)

2年半前の春、1回生の方からの突然の電話で始まった同窓会の役員です。大役を引き受けてしまいどうなる事かと心配しましたが、度々大学へ出かけ、諸先生方との相談や回生幹事の方々と月例会を重ね、ようやく産声を上げることができました。解らない事や山積み、試行錯誤の繰り返し、失敗の連続でした。同じ家政科で学びながら今まで声もかけなかった人々との出会い娘ほども年の違う人たちとも知り合い、教えてもらう事の多い会となりました。今後も同窓会が少しでも有意義な会となるよう、微力ながら努力していきたいと思っております。

大学の改革時期と重なり、先生方事務局の皆様には大変お忙しい中、ご協力いただいた事に感謝致します。葵先生をはじめとする同窓会本部の皆様方、みどり野会館の佐藤さま、小梁川さまのお力添えありがとうございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

副会長 野 田 千 恵 子 (2回生)

幸いにも、「野のはな」を結成でき、これが生活環境学部の同窓会の礎として、同窓会交友の輪を広げ続けることを、嬉しく思います。

同窓会設立に参加して、卒業以来疎遠であった仲間と話し合いや相談を重ね、また雑談の中からも色々な話を聞くうちに、つくづく感じたことがあります。それは、「皆さんが、積極的で、熱心で、心豊かであるということです。」これが、まさに金城学院スピリットのあらわれかと思いました。おかげで、書記の仕事もだんだん楽しくなりました。

それぞれが、在学中に身につけた金城学院スピリットを同期生や先輩後輩で互いに感じ合い、認め合うことは、自分自身の視野を広め、心を豊かにする上で、とても良いことではないかと思えます。皆様も同窓会活動に参加してみてください。

書 記 岩 田 明 子 (1回生)

同窓会設立準備委員会にと、お声をかけて頂きました時には、何の特技もない私に出来るものなどないという不安を持ちつつお引き受けしてしまいました。

一・二回生の先輩の皆様がひとつひとつ手探りの大変な御苦勞を見事なチームワークと指導力を発揮されまして和やかな雰囲気があります「野のはな」が発足されたのです。心豊かな先輩にはすっかり甘え、後輩の皆様には若さと行動力にこれ又、甘えて、私は只々皆様と楽しいひと時を過ごす喜びで参加させて頂いた様に思います。

それぞれ年を重ねてからの出会いですのに理解し合い共感できる素晴らしい集まりであったと思います。御一緒出来ました皆様には心から感謝申し上げます。

どうぞ卒業生の皆様回生幹事として一度は参加されることをおすすめ致します。

回生幹事 池 田 純 子 (3回生)